

平成29年度北陸地区国立大学学術研究連携支援報告書

研究グループ名	地域再生のための科学技術コミュニケーション活用ネットワーク (支援期間：平成28年度～平成29年度)		
大学名	所属	氏名	
北陸先端科学技術大学院大学	先端科学技術研究科	教授 敷田麻実 ◎	
富山大学	人間発達科学部	准教授 高橋満彦 ○	
注1. 各大学の研究グループ責任者の氏名には○印を、研究グループ代表者には◎印を付してください。 注2. 所属(その他の機関については職名も)については、平成30年3月末現在を記入してください。			
その他の機関の構成員	機 関 名	所 属	職 名
	金沢星稜大学	経済学部	教 授
			氏 名
			新広昭
成果概要	<p>現在の大学では、地域社会問題の解決のために様々研究成果や社会的課題の解決技術を研究し、また提供している。近年、こうした研究開発結果の社会的実用は「科学技術コミュニケーション」として研究するアプローチが進められてきた。また、行政の政策実施プロセスでもファシリテーションとともに重視されている。</p> <p>しかし、その中核となるコミュニケーション研究は、各大学の研究者が独自に開発や洗練しているため、開発にロスや重複が多く、問題になっていた。そこで、地域課題を解決するためのイノベティブな解決方法の提案と既存の法律や制度の接合を研究し、分野を超えて科学技術コミュニケーションを研究することで解決を図ることをこの研究グループでは目指した。そのために、地域社会向けの科学技術コミュニケーション技法やプロセスの設計を公開・共有し、北陸地区の大学で協働利用できるテキストやプログラム作成を共同で推進した。</p> <p>具体的には、科学技術コミュニケーションツールの開発とテキスト作成を各自で検討した後、共同研究会の開催を行い、富山大学と北陸先端科学技術大学院大学で、2017年12月23日、2018年2月23日、同3月13日と、3回の合同ワークショップを開催し、金沢星稜大学や富山大学の他の専門分野の研究者も参加して、このテーマについての事例報告と意見交換を行った。</p> <p>特に、社会と科学技術の関係や、専門家と社会の関係について、両校の学生を含めて議論し、科学技術についての価値観の多様化について考える機会となった。また、議論するだけではなく、当初の目的であった参加者と複数のケース作成を行った。特に富山大学の教員の専門分野である、北陸の各地で問題となっている獣害などの野生生物の問題を事例に、社規的課題を地域が解決する際の法律と社会制度のアプローチの実社会における矛盾の解決について考えるケースを作成した。</p> <p>この研究連携は、地域という共通の研究の場を持ちながら、別の専門分野であるために連携できていなかった研究者同士が、研究会を開催し議論を進めるだけではなく、ワークショップでケース作成などのアウトプットをしながら活動することで、共通の地域課題に連携急いで取り組めるという共有を生み出した。また科研費を連携して申請し、獲得できたことで、更なる研究の展開につながることもできた。</p>		
獲得した外部資金	<p>・H29 基盤研究(C)(一般)(H29～H32)、「猟漁五部作一狩猟・漁撈の諸要素に着目した野生動物法の各論構築」、高橋 満彦(代表), 5,000 千円</p> <p>・H30 基盤研究(B)(一般)(H30～H33), 観光地域における資源戦略のための地域資源の高度利用プロセスの研究, 敷田麻実(代表), 11,590 千円</p>		